



④ 昨シーズンは全試合に出場して6得点を獲得。今年はエースナンバーを任せられる

輝くあの人にインタビュー

# 人きらっとひかる

AC長野パルセイロ  
ミッドフィールダー 背番号10

やまなか  
れお  
山中麗央選手



背番号10を背負い  
今年はJ3優勝、J2昇格へ!

山中選手の持ち味は、なんととっても両脚ともに蹴られる精度の高いシュート力です。誰かと比べるのではなく、「自分らしい10番を目指したい」という言葉にも納得がいきます。

## 大学リーグで大活躍 チーム得点王を獲得

山中選手が、プロリーグから一目置かれる存在になったのは、拓殖大学時代でした。大学2年の終盤に試合に登場すると、すぐさま決勝点をあげて鮮烈デビューを飾ります。3年生の時は16試合に出場し、3ゴール2アシストと11年ぶりの1部昇格に貢献。さらに4年生では、1部リーグでチーム得点王にも輝きました。

その破竹の勢いを導いたのは、なんと遅刻がきっかけだったそうです。「新人戦大会の時にAチームの選手が遅刻して、その選手の代わりに僕が出場しました。そこで1ゴールアシストを決めてから、いろんな場面でチャンスをもたらされるよう

## AC長野パルセイロのサポーターは 気持ちの温かい人が多い

「二人っ子なせいかな、友達やサッカー仲間と過ごすのが好きです。AC長野パルセイロは上下関係の厳しさはなく、雰囲気がいいので、それもあって若手ものびのびできるんじゃないかと思います」。

「二人っ子なせいかな、友達やサッカー仲間と過ごすのが好きです。AC長野パルセイロは上下関係の厳しさはなく、雰囲気がいいので、それもあって若手ものびのびできるんじゃないかと思います」。

山中選手にとってAC長野パルセイロは、小さい頃からスタジアムに足を運び、いつかは、あのピッチに立ちたいと夢見た舞台、そしてチームです。ルーキーイヤーとなった2022シーズンは、全23試合に出場して6得点を記録。さらに今シーズンの記録更新が期待されます。

さて、今年は全席で声出し応援が可能になりました。ホームでもアウェイのスタジアムでも、応援席がチームカラーのオレンジ色に染まる風景は、圧巻です。AC長野パルセイロのサポーターは、山中選手によると「他のクラブに比べて温かい人が多いような気がします」とのこと。負けても引分けでも、「次は頑張ろうよ!」と前向きな声を掛けてくれる人が多いそうです。

サッカーリーグJ3で、開幕戦から躍進を続けるAC長野パルセイロ。今シーズン、エースナンバーの10番を背負い、さらなる活躍が期待されるのが2年目を迎える山中麗央選手です。千曲市出身、「サッカーを通じて、地元長野を盛り上げていきたい」と熱く語っていただきました。

## 今シーズンから エースナンバー10番に

本誌の取材班がAC長野パルセイロの練習拠点の一つである長野市菅陸上競技場に伺ったのは、4月20日(木)。J3第7節を終了した時点で勝ち点を14に伸ばし、リーグ首位に浮上した翌々日のことでした。練習公開日ということもあって、この日は平日ながらも熱心なサポーターが訪れ、トレーニングマッチなどで汗を流す選手を見守っていました。

長野県出身者が多いAC長野パルセイロですが、今シーズン背番号24から10に変わり、サポーターの話題を集めているのが、千曲市出身でポジションはMF(ミッドフィールダー)の山中麗央選手です。サッカーにおいて背番号10は、花形といわれるエースナンバー。また、ミッドフィールダーは司令塔としてチームを組み立て、ゴールをアシストするだけでなく、攻撃に転じて得点するなど中心的な役割を担います。

「10番は宇野沢(祐次)さん、あずさん(東浩史)といった歴代のレジェンドが背負ってきた番号です。それぞれにチームを引っ張ってきた2人なので、10番というプレッシャーはありますが、期待される以上の活躍をしたいと思っています」。

「サポーターの声援や応援歌を聴くと、胸が熱くなりますし、気持ちも高ぶります。ぜひ一度、会社のお仲間や友人を誘ってスタジアムに足を運んでください。そして、今シーズンはJ3優勝、そしてJ2昇格を目指して、ともに闘いましょう!!」。



④ サポーターの声援が選手の力になる

### PROFILE

千曲市出身。1999年7月10日生まれ。中学、高校とAC長野パルセイロのアカデミーに所属。市立長野高校では、同校初となるインターハイでのゴールを決めて話題となる。拓殖大学卒業後、AC長野パルセイロに加入。ポジションはMF。今季からエース番号10番を任せられる。

### DATA

AC長野パルセイロ  
【創設】1990年(前身は長野エルザSC)  
【クラブ紹介】2014年、Jリーグに入会。チーム名の「AC」はAthletic Clubの略。パルセイロ(PARCEIRO)はポルトガル語で「パートナー」を意味し、クラブと地域社会が共に手を携えて強いパートナーシップで共生する「地域密着協働型スポーツクラブ」を目指している。ホームスタジアムは、長野市篠ノ井東福寺にある「長野Uスタジアム」。